

イヴの総て All About Eve

観賞日 2020・8・10

【概要】

制作 1950年 米 上映時間 138分
監督 ジョゼフ・L・マンキウィッツ
脚本 ジョゼフ・L・マンキウィッツ
音楽 アルフレッド・ニューマン
出演 ベティ・デイヴィス (マーゴ・チャニング)
アン・バクスター (イヴ・ハリントン)
ジョージ・サンダース (アディソン・ドワイト)
セレステ・ホルム (カレン・リチャーズ)
マリリン・モンロー (カズウェル)



【あらすじ】

演劇界最高の栄誉であるサラ・シドンス賞の授賞式。今年度の受賞者は最年少の受賞者となったイヴ・ハリントン。今や時代の寵児となり、語りつくされた感のあるイヴであったが、まだ語られていない秘密があった。今から8か月前のこと。劇作家ロイズ・リチャーズの夫人であるカレンは大女優マーゴ・チャニングの芝居を毎晩観に来る若い女性イヴ・ハリントンの存在が気になる。カレンはマーゴにイヴを紹介するが、このことがすべての始まりとなった。一度会っただけでイヴはマーゴの心を捕らえた。イヴはマーゴの付け人となりマーゴの身の回りの世話をする。マーゴの世界にじわじわ入り込み存在感を発揮していくイヴ。イヴを見る目が同情から脅威に変わりやがて恐怖に変わっていく。車のガス欠で遅刻したマーゴの代役を急遽つとめ絶賛を浴びるイヴ。イヴの標的はマーゴから男性陣(批評家アディソン、劇作家ロイド、プロデューサーマックス、演出家ビル等)に変わって来る。男性陣の間を巧みに泳ぎ回るイヴ。弱肉強食の世界。演劇界のインサイド・ストーリー。スリラー映画を観ているような面白さ。マンキウィッツの完璧なシナリオ。

【解説】

■ポイント

●演劇界の内幕もの

のし上がるためなら何でもやる。関係者に取り入り、恩人までも脅迫し、踏み台にする。アカデミー賞受賞スピーチを想起させるイヴの受賞スピーチが印象的。

●映画からブロードウェイミュージカルへ

映画化から20年後にブロードウェイでミュージカル化。マーゴ役は当初、ローレン・バコールがつとめたが、後にアン・バクスターに変更

●第23回アカデミー賞受賞

作品賞、監督賞、脚本賞、助演男優賞(ジョージ・サンダース)、衣装デザイン賞、録音賞
マンキウィッツ監督は前年の「三人の妻への手紙」に続き2年で4つのオスカーを受賞

■見どころ

●過去、現在、未来を象徴する三大女優の共演

ベティ・デイヴィス(過去): 1908年~1989年、オスカー2回獲得。

ハリウッド屈指の演技派女優

アン・バクスター(現在): 1923年~1985年、オスカー1回獲得。

マリリン・モンロー(未来): 1926年~1962年、1950年代のセックスシンボル。

●ラストで次のイヴが登場